



読めない漢字 の読本

小学館

読めない漢字 の本読

尚学図書・言語研究所 編

江苏工业学院图书馆
藏书章

はじめに	i
目次	ii
凡例	iv
第一部 植物、動物など	1～116
第二部 飲食物、衣類・織物、道具など	117～244
第三部 地名、姓氏など	245～285
五十音順索引	286～301
画数引き索引	302～316

はじめに

漢字の煩雑さを避けようという時代から、漢字を効率よく生かそうという時代へ急転換し、国語施策の目的も、制限から目安へと変わってきました。その背景には、コンピュータの処理能力の驚異的な向上があり、伝統を見直し自らのアイデンティティを探ろうとする人々の趨勢もあります。自分の姓名について旧字体を固執する人が多くなり、また、人名用漢字が倍増したことなどもその現れといえます。

とはいえ、実際には抵抗を感じざるをえないむずかしい漢語もたくさんありますし、なかなか読めない漢字の言葉も少なくありません。ただ、ふだん必要とする範囲の語でいえば、それらは多くはいわゆる難訓語で、ある意味ではまさに日本語の特性を担うものでもあります。それらの伝統的な語群は、字源や語源をたどってその漢字のルーツを探ってみると、なるほどそういう由来があったのか、と納得できることが多いものです。字画の多い、見るからに歯の立たなかった漢字が、まるでスポーツライトを当てられたかのように見事に浮かび上がってくる場合があります。また、いわゆる国字の類が多いのに驚かされたりもします。

やさしく楽しく難読語がわかる、そういうことをめざして編集されたのが本書です。

植物・動物・日常生活のことばはもとより、地名・駅名・人名など幅広く収録するように努めました。巻末には、「五十音順」「画数引き」の二つの索引を掲げて検索の便をはかりました。

本書が、難読語を理解する助けとなり、漢字を通して、改めて日本語を見直す一助ともなれば幸いです。

目次

第一部

I 1	植物……………	2
	＊漢字の読み方……………	56
I 2	動物……………	57
	＊漢字部首名称……………	80
I 3	鳥……………	82
I 4	魚・貝……………	95
	＊言葉あそびの歌……………	115

第二部

II 1	からだにまつわる語……………	118
II 2	ここにまつわる語……………	130
	＊親族の呼称……………	138
II 3	飲食物……………	139
II 4	衣類・織物……………	147
II 5	道具……………	155
II 6	家具・調度……………	166
II 7	生業・職業……………	170
II 8	玩具・遊び……………	174
II 9	建築物・場所・地形……………	176
	＊こ・そ・あ・ど……………	183
II 10	自然・時候……………	184

Ⅱ—19	カタカナ語の当て字	240
Ⅱ—18	法律用語	238
Ⅱ—17	男と女	236
Ⅱ—16	雑々	230
Ⅱ—15	仏教関連	223
Ⅱ—14	神道関連	218
Ⅱ—13	色里	216
	＊歌舞伎の外題	214
	＊大相撲力士名	212
Ⅱ—12	芸能	207
	＊文様	206
Ⅱ—11	色名	196
	＊月の異名と二十四節気	194
	＊十干十二支	193

第三部

Ⅱ—20	動詞、形容詞・ 形容動詞、副詞	243
Ⅲ—1	日本の地名	246
	＊旧国名一覧	270
Ⅲ—2	カタカナ語の漢字	272
	国名	272
	外国の地名・呼称	274
	外国の人名	276
Ⅲ—3	日本人の姓氏	279
	五十音順索引	286
	画数引き索引	302

凡 例

一、本書は、難読語を中心に、難読地名、難読姓氏等約三〇〇〇項目を集め、読みや解説を付けてまとめたものである。

一、全体を三部構成としたが、第一・二部では、「植物」「動物」をはじめ、「からだにまつわる語」「こころにまつわる語」「飲食物」など、生活に密着した分類を行って五十音順に配列して構成した。そして、各々の語の字源・語源をたどることにより、難読語をやさしく楽しく理解できるようにした。見出し語の第一番に掲げた表記が必ずしも最も通用しているものとは限らない。

本文中の略記号は次のとおりである。

▼ 意味を解説した。

【漢字】 主として字源を示した。

【語源】 いくつかの語源説から主要なものを挙げた。

【参考】 補足すべき説明を掲げた。

一、第三部では、全国の市区郡町村名・駅名・山川名などおよそ一三〇〇と、国名、外国の地名・人名、日本人の姓氏などを掲げた。

一、その他、参考として歌舞伎の外題や相撲のしこ名、旧国名や二十四節気なども収録した。

一、巻末に第一・二部の見出し語について「五十音順索引」「画数引き索引」を付して検索の便をはかった。

第一部



I 4	I 3	I 2	I 1
魚・貝	鳥	動物	植物
* 言葉あそびの歌		* 漢字部首名称	* 漢字の読み方
115	95	82	80
		57	56
			2



植物

石^あ
お
さ
蓴

▼緑藻類アオサ科の海藻。干潮線付近の岩石に付着して生育。食用にもなるが、多くは飼料とする。

【漢字】漢語「石蓴（せきじゆん）」を当てたもの。「蓴」は「ぬなわ」すなわち蓴菜（じゆんさい）をいう。

木^あ
け
び
通通
草

▼アケビ科の落葉低木。茎はつる性。春には淡紫色の花が咲き、秋には長卵形で甘みのある実をつける。

【漢字】漢語「木通（もくつう）」を当てたもの。「通草（つうそう）」は、アケビの葉茎の名であるが通用される。

【語源】アケミ（開肉）、アカミ（赤実）、アマカツミ（甘葛実）などの転とも、またアケツビ（開玉門）の略などともいう。

苳^あ
さ
ざ
菜苳
菜

▼リンドウ科の多年草。池、沼などに生え、夏、黄色い花を水面に開く。花蓴菜（はなじゆんさい）。

【漢字】漢語「苳菜（こうさい）」を当てたもの。「苳」は「苳」に同じ。

【語源】水の浅い所に生じて咲く意から浅々菜の略とも。

あさ っ き
浅 葱

糸 葱

あざ み
薊

あ じ さ い
紫 陽 花

▼ユリ科の多年草。千本分葱（せんぼんわけぎ）ともいう。

〔漢字〕き（葱）は、ねぎの古称。臭いが浅く、根深（ねぎの異名）に対して浅い葱の意からの当て字。「糸葱」は細いところから。漢語では「胡葱（こそう）」。

▼キク科アザミ属の多年草の総称。葉は大形で羽状に裂け、刺（とげ）が多く、花は紅紫色。

〔漢字〕漢語「薊（けい）」を当てたもの。

〔語源〕アザは八重山語でトゲ、イラ（刺）の意で、アザミは刺多い物の意、とする説がある。

▼ユキノシタ科の落葉低木。日本原産で、ガクアジサイを母種とする。古く「あじさい」とも。

〔漢字〕漢語「紫陽花（しようか）」を当てるが、中国では別のもの。白居易（はくきょい）の詩に「色紫気香、芳麗……、因以紫陽花名之」と見える。中国では「八仙花」「綉球花（しゅうきゅうか）」という。

あすなろ(あすなろう)
翌 檜

▼ヒノキ科の常緑高木。
漢字 樹形がヒノキに似ており、「明日(あす)は檜になろう」の意から名付けられたという俗説から。「翌」は翌日の意。
参考 異名の「あすひ(明檜)」、「あすわひのき(明日檜)」も、同じ意からの当て字。

あせび(あしび)
馬 酔 木

▼ツツジ科の常緑低木。葉はやや厚く、先がとがり、縁には細かい鋸歯(きょし)がある。葉は有毒で殺虫剤に、材は挽物細工などにする。
漢字 漢語「馬酔木(ばすいぼく)」を当てたもの。
語源 アセビは、馬がこの葉を食べると、酔って足がなえるところから、アシミ(悪実)の音便、などの説がある。

あやめ
菖 蒲

▼アヤメ科の多年草。サトイモ科のショウブの古名「あやめ」と区別するため、ハナアヤメとも呼ぶ。
漢字 漢語では、菖蒲(しょうぶ)は本来、石菖(せきしょう)をさすが、「あやめ」に当てたもの。
語源 葉脈の形からアヤメ(文目)の義、アヤメグサ(漢女草)の義、などの説がある。

符アンペラ
簾

虎いたどり
杖

苺いちご
莓

▼カヤツリグサ科の多年草。熱帯地方の湿地に自生。この茎でむしろを織り、そのむしろもアンペラといった。
 [漢字] ポルトガル語（マレー語からとも）に、漢語で竹むしろの意でいう「符簾（こうとう）」を当てたもの。

▼タデ科の多年草。各地の山野・路傍に生える。茎は中空で節をもつ。若い茎は紅紫色の斑点があり、酸味を帯び食用になる。すっぱぐさ・すかんば、などともいう。

[漢字] 漢語「虎杖（こじょう）」を当てたもの。「杖は其茎を言い、虎は其斑を言う」（「本草綱目」）からという。

[語源] 根を薬に用いることからイタドリ（疼取）の意ともいわれる。

▼バラ科のオランダイチゴ属、カジイチゴ属、ヘビイチゴ属などの総称。古くは、いちご（蓬菓）とも。

[漢字] 漢語「苺・莓（ばい）」を当てたもの。苺と莓は同音同義とするが、苺は草いちご、莓は木いちごとも。「覆盆子（ふくぼんし）」も「いちご」に当てるが、正しくは中国産の近似種の名。また、漢語「蓬菓（蓬菓・ほうるい）」に和名いちごを当てるが、蓬菓をいちごと訓（よ）んだ例もある。

[語源] イチゴは、イチビ（赤檮・櫟）の変化したイチビコ（蓬菓）の略ともいう。

い ち じ く
無花果

映日果

▼クワ科の落葉小低木。小アジア原産。食用とする実のような部分が花である。

【漢字】漢語「無花果（むかか）」「映日果（えいじつか）」を当てたもの。

【語源】ペルシア語を音訳して中国で映日果といい、その近世音インデクワがイチジクとなったものかという。

い ち は つ
一八

鳶尾・紫羅傘

▼アヤメ科の多年草。中国原産。江戸時代以前から観賞用に栽培される。初夏、青紫色や白色の花を開く。いち は ち・こ や す ぐ さ、などともいう。

【漢字】漢語「鳶尾（えんび）」「紫羅傘（しらさん）」を当てたもの。「一八」は、アヤメ科の中で最初に咲くから「いち は つ」と名づけての当て字かとされている。

い ち ょ う
銀杏

公孫樹
鴨脚

▼イチヨウ科の落葉高木。中国原産。種子を「ぎんなん」とも呼び食用とする。

【漢字】「いちょう」とその実をいう漢語「銀杏（ぎんなん）」を当てたもの。「公孫樹（こうそんじゅ）」は、「言：其実久後生、公種而孫方食之也」（「事物異名録」）からともいわれ、漢語「鴨脚（おうぎやく）」は、葉の形が鴨の脚に似ているところからとされる。

【語源】「鴨脚」の唐宋音が変化して「いちょう」となったもの。

刺^{いら}草^{くさ}

苧^き草^{よう}・蓴^き麻^{よう}

苧^う香^い

藿^き香^{よう}

五^う加^こ木^ぎ

五^う加^こ木^ぎ

鬱^う金^{こん}

▼イラクサ科の多年草。茎と葉には毒を含むとげ（Ⅱいら）がある。

【漢字】漢語「刺草（せきそう）」を当てたもの。「苧草」の「苧」はとげもいうが、また、刺された痛みから当てたものか。「蓴麻（じんま）」は、いらくさの漢名。

▼セリ科の多年草。南ヨーロッパ原産。茎・葉・実ともに香りがあり、香味料などにする。

【漢字】漢語「苧香」「藿香（かいこう）」を用いたもの。「うい」は「苧」の唐宋音による。

▼ウコギ科の落葉低木。古く中国から渡来。多く生垣に用い、若葉は食用、根の皮は、五加皮（ごかひ）といい、薬用とする。

【漢字】漢語「五加（ごか）」を当てたもの。「五加木」は、「うこぎ」の「き」にひかれて、木を当てたものか。

【語源】古名、ムコギの変化したもので、ムコギは葉が五葉一帯であるところから向木の義かとも。

▼ショウガ科の多年草。熱帯アジア原産。根茎は黄色染料、香料、薬用とする。色名の鬱金は、この根茎で染めた色。「うつこん」とも。

【漢字】漢語「鬱金（うつこん・うこん）」を用いたもの。

独^う
活^ど

▼ウコギ科の多年草。若い芽を食用とするが、大きくなりすぎると食用にならない。大きいだけでもの役にも立たない意の「独活の大本」はここから生まれた。「土当帰（どとうき）」をも当てるが厳密には誤用。

【漢字】漢語「独活（どつかつ）」を当てたもの。風の無いのに動くところからともいう。

【語源】ウはウツホ、トは土からとも。

金^エ
雀^ニ
花^{シダ}

金雀児

▼マメ科の落葉低木。ヨーロッパ原産。初夏、黄色い蝶形の花が多数咲く。

【漢字】漢訳語「金雀花（きんじゃくか）」を当てたもの。黄金色で雀が飛ぶように見える花からつけられたとされる。「金雀児」とも当てる。

【語源】スペイン語から。

えのころぐさ
狗尾草

狗児草

▼イネ科の一年草。ねこじやらしとも。

【漢字】漢語「狗尾草（くびそう）」を当てたもの。その花穂が子犬の尾に似ているところから。

【語源】えのころは、いぬころ、犬の児の意で「狗児」をも当てる。

えん どう
豌 豆

園豆・蘭豆

▼マメ科の二年草または一年草。ヨーロッパ原産。種子と、若いさやを食用とする。

〔漢字〕漢語「豌豆（えんどう）」を用いたもの。「園豆」「蘭豆」とも。「色葉字類抄」には「園豆 エントウ」、「伊京集」には「蘭豆 エンドウ 或作豌豆」と見える。「蘭」や「園」は畑の意から当てたもののか。

お お ば こ
車 前 草

大葉子

▼オオバコ科の多年草。道傍や山野に生える。葉や種子は健胃剤・咳止めなどに用いる。

〔漢字〕漢語「車前（しゃぜん）」を当てたもの。「車前」の字の由来は「名語記一丸」に「良薬たるによりて、昔の者婆くるまの前板にうへて、出行のほど、ひまなくつみきりて食せりける因縁にて車前草となつくと申しつたへたり」とある。

〔語源〕オオハコ（大葉子）の意からで、その字も当てる。

お け ら
朮

白 朮

▼キク科の多年草。根茎を乾燥したものは蒼朮（そうじゆつ）と呼ばれ、健胃・利尿剤とするほか正月の屠蘇散の原料ともする。「うけら」ともいう。

〔漢字〕漢語「白朮（びやくじゆつ）」「朮（じゆつ）」を当てたもの。

〔語源〕ヲケを祈禱の意とし、神事にまつわる語と見る説が多い。

〔参考〕京都の八坂神社の元旦の朮祭（おけらまつり）には、神前のかがり火におけらを加える。

含羞草

御辞儀草

おじぎ そう

▼ マメ科の一年草または多年草。ブラジル原産。葉はわずかの刺激にも反応して垂れさがる睡眠運動を起こす。眠り草、とも。
 【漢字】 漢語「含羞草（がんしゅうそう）」を当てたもの。はにかむように葉を垂れるところからか。「御辞儀草」は葉が少しの刺激でもお辞儀をしたように伏せるところから当てたもの。

苧環

おだまき

▼ キンポウゲ科の多年草。古くから観賞用に栽培される。「いとくり」とも。
 【漢字】 苧環の「苧」は、からむしや麻の皮の繊維でつくった糸。「たまき（環）」は「手巻」の意で、「おだまき」は、糸によった麻を、中を空虚にし丸く巻きつけたもので、当て字。この形に、花の形が似ているところからの名。

女郎花

おみなえし

▼ オミナエシ科の多年草。秋の七草の一。漢名は黄花竜芽。
 【漢字】 女郎（じょうろう）は少女・若い女性の意。漢語「女郎花（じょうろうか）」を当てたものか。「じょうろうか」と音読した場合は、おみなえしのほかに、木蓮（もくれん）などもさす。
 【語源】 オミナは古く「をみな」で少女の意。ヘシは「へす（圧）」で少女をも圧するやさしさをいったものとも。

沢おも
瀉だか

万おも
年も
青と

海かい
棠どう

▼オモダカ科の多年草。各地の水田、池、沼などに生える。葉は鏟（やじり）形で長い柄を持つ。漢名は野茨菰（やじこ）。
【漢字】本草でいうサジオモダカの漢名「沢瀉（たくしゃ）」を当てたもの。
【語源】葉面の紋脈の隆起の具合が、オモダカ（面高・顔がごつごつとして鼻なども高いさま）な感じであることからとも。

▼ユリ科の常緑多年草。厚くてつやのある葉は狭長楕円形で先がとがる。
【漢字】漢語「万年青（まんねんせい）」を当てたもの。葉が枯れたり黄葉したりすることなく、いつも青いところから。
【語源】豊前の宇佐神宮の東のオモト（御許）山に産するところから、などの説がある。

▼バラ科の落葉低木。中国原産で観賞用に栽植。はなかいどう、とも。
【漢字】漢語「海棠（かいどう）」を用いたもの。

【参考】海棠（花海棠）は、睡れる花ともいわれる。唐の玄宗皇帝が楊貴妃の酔後の姿を「海棠睡り未だ足らず」と評したことはからで、美人が酔って眠ったあとの、まだ眠りたりないなまめかしくよわよわしいさまをいう。また、海棠が雨に濡れた風情も、美人のうちしおれた姿のたとえに用いられる。